

令和 8 年度病害虫発生予察注意報第 5 号

令和 8 年 7 月 2 9 日

岐 阜 県

作物名 大豆、野菜類、果樹類および花き類

病害虫名 ハスモンヨトウ

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 8 月上旬以降

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) 海津市、可児市及び恵那市に設置したフェロモントラップへの誘殺数は、5 月下旬から増加し、累計誘殺数は海津市において 5 月第 1 半旬～7 月第 4 半旬の期間で 1191.7 頭（平年比約 2.3 倍）、可児市において 5 月第 4 半旬～7 月第 4 半旬の期間で 314.0 頭（平年比 1.6 倍）、恵那市において 5 月第 4 半旬～7 月第 4 半旬の期間で 136 頭（平年比約 2.2 倍）と多くなっている（図 1、2、3）。
- (2) 7 月下旬の巡回調査では、岐阜・西濃地域の大豆で被害が見られ（写真 1）、若齢幼虫が観察されている（写真 2）。また、中濃地域のサトイモでも被害が認められている。
- (3) フェロモントラップによる誘殺ピークは平年 9～10 月に見られることから、今後発生量が増加し、被害が拡大するおそれがある。
- (4) 名古屋地方気象台の 1 か月予報（7 月 23 日発表）では、今後の気温は平年より高いと予報されており、本虫の発生に好適な気象条件になると予測される。

5 防除上の注意事項

- (1) 大豆では白変葉の発生を確認したら、直ちに防除を実施する。
- (2) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫の防除に重点を置く。
- (3) 世代を重ねるごとに発生量が増加する傾向にあるため、早期に防除する。
- (4) 施設栽培では、防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。また、防虫ネットに産卵され、孵化した幼虫が施設に侵入することがあるため、卵塊は見つけ次第除去する。
- (5) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。
(<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム)

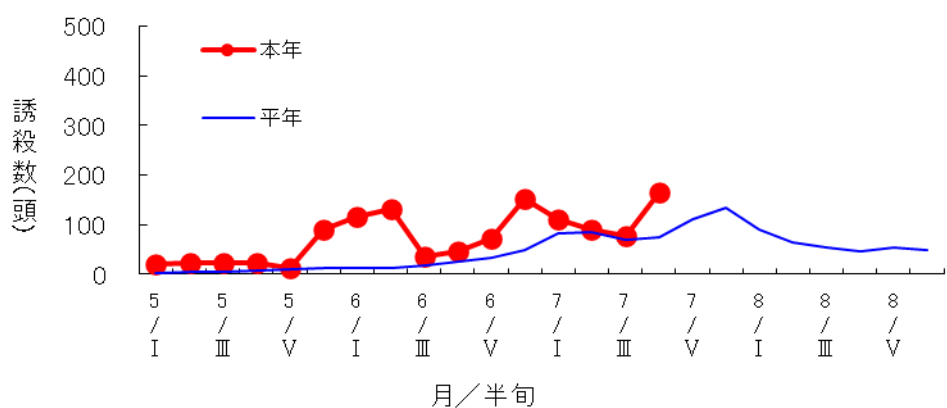


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数の推移(海津市)

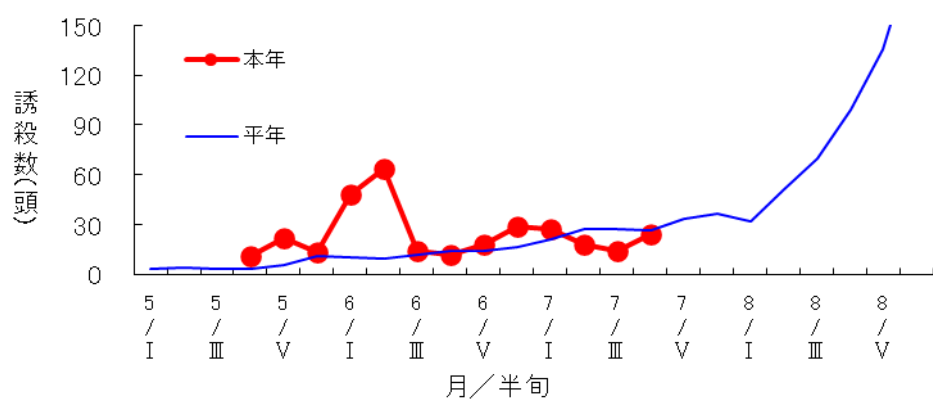


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数の推移(可児市)

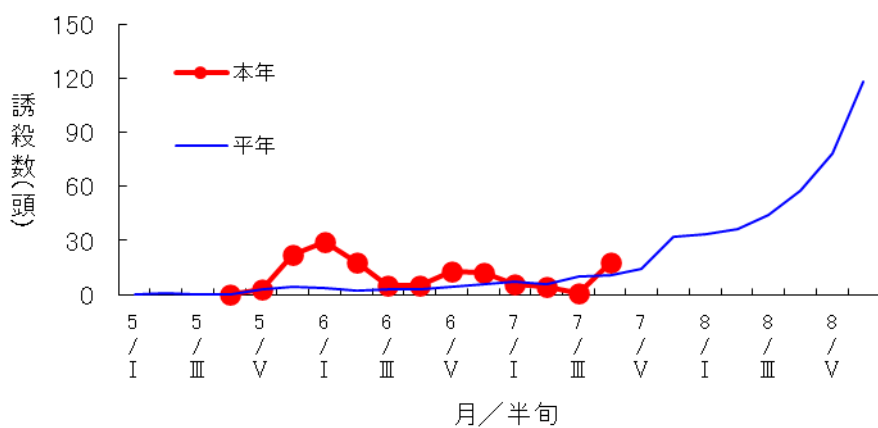


図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数の推移(恵那市)



写真1 大豆の被害



写真2 ハスモンヨトウの幼虫